

初版 編集後記

富山県立大学図書館では、2008年10月より「県立大学 読書マラソン」という取り組みを開始しました。学生の皆さんに本に親しみ、読書力を高めて、幅広い教養を身につけてほしいと、図書館の出入り口付近の一角に「県立大学 読書マラソンコーナー」を設置したものです。専門書に限らず、話題の本や皆さんの希望を反映した図書を集めたスペースとなっています。

一方、富山県立大学生協同組合でも、これまでに「読書マラソン」企画に取り組んできました。組合員が本を1冊読み終えたら、「読書カード」に感想文を書き込みます。その読書カード3冊分と引き換えに、生協での図書購入の割引券をもらえるとという仕組みです。大学4年間に100冊の読破（読書カード100枚の執筆）を大目標にしています。

本学における読書推進活動の名称を、図書館と生協の双方が「読書マラソン」に統一したのは、皆さんに楽しみながら多くの図書を読んでもらいたい、というねらいからです。「読書マラソン」への参加申し込みは、生協のカウンターで受け付けています。なお、申込用紙は図書館にも置いてあります。奮ってエントリーしてみてください。

こうした「読書マラソン」の取り組みを機会に、学生時代に数多くの良書と出会ってほしいという願いを込めて、本学の教養教育を担当する教員全員が、それぞれ学生の皆さんにお薦めしたい図書を紹介するために、この小冊子を作成しました。紹介された図書の中には、現在品切れのものも含まれますが、図書館での貸し出しや再版の折に手にする機会もありうることから、あえて掲載しています。

魂をふるわせる1冊の本に出会うことは、生涯の友人を得ることに匹敵するといわれます。世の中に氾濫する出版物の大海の中であって、この小さな冊子が皆さんの図書選択の羅針盤として利用されるならば幸いです。

なお、この冊子のタイトルは、冒険小説『宝島』などの作品で知られるイギリスの作家R. L. スティーヴンソンの随筆“VIRGINIBUS PUERISQUE [və:dʒɪnɪbəs pjuərɪskwɪ] (For Girls and Boys)”を典拠としたものです。

2009年2月

岡本 啓 記

第2版 編集後記

図書館および生協の「読書マラソン」のために推薦図書を挙げてほしいという呼びかけに対して、自分の趣味を少し披露してみようかな、というくらいの軽いノリで応じた教員も多かったのではないかと思います。あまり肩肘を張りすぎずに書いたことも、学生たちにはよかったかもしれません。有り難いことに執筆者たちの予想を上回る反響をいただき、刷り上げた1200部のほぼすべてを配布し終えるや、ほどなくして第2版の編集と発行を企画することとなりました。将来のフルモデルチェンジを睨みながら、今回はマイナーチェンジの増補改訂版となりました。

改訂版を手にしてまず目にとまるのは、ギュスターヴ・ドレの版画が入ったことでしょう。本冊子にふさわしい版画を厳選して、中哲裕さんが資料を提供してくださいました。その他、推薦図書の書名等の太字化や「索引補遺」(別名：おもしろ索引)の項目追加など、いくつか変更を試みました。これらの試みが学生諸君の読書意欲を引き出す方向に少しでも作用すれば幸いです。

第2版では新しく36冊を超える図書が推薦されています。忙しい合間を縫って、新たに原稿を寄せていただいた教員諸氏の熱意と見識には頭が下がります。この36冊については、初版にも増して、学生たちの嗜好や必要性に立った観点から選択されているように思われますが、どうでしょうか。

ところで、推薦図書の書名を見て、教員の中には「あ、この本なら私も挙げたかった」という、先を越された悔しさを味わった向きもあるのではないのでしょうか。愛読書を挙げるというのは、自分の内面を一部なりとも公開することになりますが、同時に「私はこの本のことを知っているんだ」と宣伝することにもなります。あまりこの種の思いが強すぎると、学生への推薦という当初の目的から逸脱してしましますが、この種の虚栄心や競争心も、将来予定される本冊子のフルモデルチェンジに向けて推薦リストを吟味するよい刺激になることでしょう。(私自身は、かつて高校生の頃、クラスメートと毎月の読書冊数を競ったことを思い出しました。)

ここに挙げられた推薦図書には、推薦者が最近読んで感銘を受けたものもあれば、若い頃に感動して以来の愛読書となっているものもあります。いずれの場合も、今の学生に薦める場合、時代や経験の違いを考慮すべきことはもちろんで、本冊子でもこの条件は満たされているものと信じます。しかし、これは翻って、学生たちと接する際にも通ずることかもしれません。私たち教員は、よいものは時代の趣味を超えて若い人の心をつかむという信念を持つと同時に、伝える対象が埃を被っていないか絶えず省みる謙虚さを持ち合わせていないといけないでしょう。(ここでは、私自身の授業のことを問わないでくださいね。)

第3版 編集後記

「学生諸君に少しでも本を読んでもらいたい、そこでブックガイドを作ろう」という動機から、2009年2月に教養教育全教員が学生への推薦図書を一覧アップして作られた小冊子「VIRGINIBUS PUERISQUE」ですが、このたび無事に第3版を出すことができました。編集担当者としてほっとしているところです。

第2版から変わった点として、以下のことがあげられます。

- (1) 新たに加わったメンバーのページの追加
- (2) 教員の似顔絵イラストの挿入
- (3) 各メンバーの推薦図書・推薦文の一部変更

(1) に関しては、第2版刊行後、新たに3名の教員が教養教育に加わりました。彼らにも図書を推薦してもらい、「教養教育全教員によるブックガイド」という形式を今回も達成することができました。またそれに伴い、退職された教員による推薦図書は、(削除することなく)現任教員のページの後に移動させ、第2版そのままの形で掲載してあります。

(2) に関しましては、イラストが得意な石森勇次さんに全員の似顔絵をお願いし、各教員のページ先頭部に挿入しました。親しみやすさが大きく向上したのではないかと考えております。

(3) については、第2版の内容の書き換えを望んだ教員もおりましたので、その点に対応いたしました。

本冊子も100ページに達し、一覧アップされている図書は、見出しとしてあがっているものだけで150を超えています。学生の皆さんの心の琴線に触れるものが間違いなく含まれていることでしょう。気軽にこの小冊子を開いてください。紹介されている図書を通じて新たな世界に触れ、精神の成長につながったとなれば、編集担当者としてはこの上ない喜びです。

2013年2月 井戸 啓介 記

第4版 編集後記

この小冊子には、富山県立大学の学生の皆さんに、少しでも多くの本を読んでもらいたいという願いが込められています。本書は、そのタイトルの通り、「若き人々のため」の読書案内です。学生諸君は、本書を手にしたら、まず初めに「教養ゼミ」担当教員の似顔絵を鑑賞し、次に皆さんの指導教員が自分のためにどのような図書を推薦してくれたのかを、じっくり吟味してください。そしてさらには、在学中のみならず、卒業後も本書を大切に保管し、幅広い教養を身につけるためのガイドブックとして、末永く十二分に活用してほしいと願っています。

本書は、教養教育の教員の間では「赤本」と呼ばれています。「赤本」の歴史は、2009年2月の初版に始まり、今回第4版を発行する運びとなりました。第4版に「見出し」として紹介されている推薦図書は計150タイトル、推薦記事の中に言及されている参考文献等を含めれば、優に260タイトルを超えます。巻末附載の【索引】を見れば、質量ともに充実したものであることが分かるでしょう。

第3版からの変更点は、おおよそ次の通りです。

- (1) 執筆者は、現職の教養教育専任教員のみとし、元教員の記事は削除した。
- (2) 巻末に附載されていた【索引補遺】（「おもしろ索引」）を割愛し、新たに【映画・ドラマ・アニメ・漫画・絵本・ゲーム等索引】を作成した。
- (3) 図版の一部に、第4版編集長（川上）が新たに撮影した写真を使用した。

なお、第3版の本文は、富山県立大学附属図書館HP所載「読書マラソン」により閲覧可能ですので、元教員の記事を読みたい場合は、そちらを利用してください。また、映画・アニメ等の索引を新たに作成したのは、現代の若者たちの関心を引きたいという編集委員の思惑もさることながら、「書物」というものが今や多種多様なメディアの一形態にすぎないこと、しかしそれでもなお、歴史的に極めて優れた「書物」は、その内容がすでに数多くの媒体に再構成されており、幅広く教養を身につけるためには、そのようなメディアも有効に活用しようと考えたためです。

富山県立大学工学部の学生は、社会の即戦力として役に立つ「工学的技能」の習熟を目指すあまり、ややもすると、普遍的な人間性に根ざした幅広い教養教育の価値を軽視しがちです。本書24、25ページに挿絵として掲載した『和字功過自知録』は、江戸時代に極めて広く流布した教訓本ですが、そこには、人間が生きていく上で最も大切なものは何かということが、非常に分かりやすく書かれています。時代が移り変わり、社会がどのように変わろうとも、人間として本質的に目指すべきものは、実はそれほど変わりません。このささやかな読書案内によって、深い人間性に根ざした豊かな心と幅広い教養を身につけてもらえるよう、心から願っています。

第5版 編集後記

2009年2月の初版よりはじまった「VIRGINIBUS PUERISQUE（若き人々のために）」（通称：赤本）も、本書で第5版を重ねることとなりました。初版発行から約10年の間に教員の顔ぶれも変わり、人数も増え、本書では29名の先生方が執筆してくださっています。社会・環境、言語・文化、精神・身体から成る総合科目系、数学、物理学、化学、生物学、情報科学から成る基礎科目系、英語、ドイツ語、中国語から成る外国語科目系と、幅広い分野から教養教育に集った先生方による推薦図書は、巻末の【索引】を参照すると計308タイトルにのぼり、ひじょうに幅広いジャンルの図書が紹介された充実した冊子となっています。多忙な教育研究活動の合間を縫ってご執筆いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

第4版からの変更点は、次の通りです。

- (1) 新たに加わった教員のページの追加と、転任・退任教員のページの割愛
- (2) 第4版執筆教員の推薦図書・推薦文の一部変更
- (3) 【映画・ドラマ・アニメ・漫画・絵本・ゲーム等索引】の割愛

本書は様々な本との出会いのきっかけのひとつです。学生のみなさんは本書を手に取り、教養教育のよく知っている先生はもちろん、まだあまりよく知らない先生がどのような図書を紹介しているのかを、ぜひ一度といわず折に触れて、はじめから終わりまでページをばらばらめくってもらえればと思います。そのなかで、目に留まった本や興味を持った本があったら、実際に手に取り、座り心地のよい椅子やソファに腰かけて、あるいはまた畳や布団に寝そべって、じっくりとその本の世界に浸ってください。

情報社会に生きるわたしたちは、日々様々なメディアを通じて大量に流れてくる情報に触れ、消費し、また別情報に触れる、ということを繰り返す生活を送りがちですが、押し寄せる情報のなかで波乗りしていくことは違った時間を持つことも大切です。読書は、さきほど「じっくり」と書きましたように、1冊を通読するには時間と忍耐を要する活動ですが、反省する姿勢や熟慮を育む活動です。ほかのメディアから離れて1人で本の世界に入り込み、内容を味わい楽しみながら、本と対話し、そのなかで自分を振り返り、考えを深め、それをもとにさまざまな他者と対話し、つながり、関係を深めていくための自分なりの声（見識）を育てていってもらえればと思います。

教養教育の先生方が本書で紹介された本の影響を受けて現在の先生方になったように、みなさんも読書を通じて自分で納得できる自分になっていく……本書がその営みの一助になれば幸いです。

第6版 編集後記

2009年に初版が発行された、富山県立大学教養教育センター教員による新入生への読書案内（通称『赤本』）も、今回の改訂で第6版となります。2024年度（令和6年度）に富山県立大学の改組などを控え、教養教育センターの成員数も第1版と比較すると約150%となりました。成員数だけでなく、分野的にも一層多彩な陣容となっております。科学技術を利用しその成果を社会に還元するにあたり、人間や社会、歴史に対する深い理解がドンドンマスマス求められています。通常の講義は言うに及ばず、本書『赤本』を利用していただければ、皆さんに思いがけない出会いの場を提供できるのでは、と秘かに自負しております。また、この期間に退職された教養教育の先生方も、約20名いらっしゃいます。「一般教育等学科」と称されたかつての組織のメンバーも含め、第6版で削除されているこれまでの読者案内の原稿は、富山県立大学教養教育センターのホームページで現在でも閲覧可能ですので、こちらの方も是非ご一読ください。

ところで、富山県はドラえもんの故郷でもあります。実はドラえもんの「どこでもドア」の登場よりもはるかに昔から、人類はタイムマシンを発明しております。それが書物です。プラトンは今から2500年ほど前に存在した人物ですが、彼の考えは現在も世界中で翻訳され、検討されています。いわばプラトンとの対話は2500年の時を超えて継続中なのです。またモーツァルトがそうであるように多作であることが天才の証明であるとするなら、数学の真の天才の一人であるオイラーの著作集は、オイラーの死後250年近く経っている現在も編集作業が終了していない継続中の大事業となっております。オイラーの思考に刺激を受けオイラーとの対話を継続している現在の数学者の書物も発行され続けております。神業のような計算だけでなく厳密な微積分が確立される前の粗削りだが大胆な計算方法も魅力的です。微積分は不思議な計算方法で、アルキメデスから1800年後にニュートン&ライプニッツに再発見されたが、AIは四則演算だけから自力で発見できるのでしょうか？

ともかく、本書『赤本』は、いわば300台以上のタイムマシンのカタログでもあるわけです。学校から出された宿題ではないので、「先生」に評価されやすいレポートを作成する必要はありません。自分好みのタイムマシンに乗り込んで、お気に入りの2～3ページを探しに、あるいは後々自分の中に広がる一行を求めて、是非時間旅行に出かけてみてください。

さて、第7版が作成されるかは不明ですが、私が大学生から大学院生だった頃にかけて、『野生の3色すみれ』が優れた翻訳として脚光を浴びておりました。また同じころ、大学院の指導教官の一人からイスラム圏の研究にも取り組むよう示唆を受けてもいました。次回があるとするれば、かつての課題に取り組み、その成果をどれ

くらい披露できているのでしょうか？最後に、今回の改訂では、井戸啓介（心理学）さんに実質的な編集作業をお願いしました。また、小林一也（情報科学）さんには、イラスト作成をお願いしました。お二人にご協力いただきましたことを心より感謝いたします。なお、今回の改訂版作成には、富山県立大学学長裁量費の助成を受けております。下山勲学長先生には、記して感謝いたします。

2023年2月 平野 嘉孝 記